

きくもとパワー



本園では、札幌市の研究主題（2年計画）【子どもの「やってみたい」があふれ未来につながる幼児教育】のもと、研究の重点である「幼児教育における今日的課題に応じた保育実践の充実」から、今年度より「幼児教育と小学校教育の円滑な接続」を担当し研究を推進しています。

今号では、1年目である今年度の研究での成果と次年度に向けて、本園の研究の3つの柱ごとにお伝えします。

柱① 3歳、4歳、5歳児の発達の違いに応じた幼児の「やってみたい」という意欲を育むための、教師の役割についてエピソードを通して考えていき、具体的な「関わり方」「言葉掛け」「環境構成」などについて探る

成果：今年度本園で検討した全エピソードを通して各年齢で大切にしたい教師の役割としておさえたものをまとめました。

幼児の「やってみたい」という意欲を育むための、教師の役割

	3歳	4歳	5歳
関わり方	・教師が心の安定になることで、自分を出せる関係性をつくる。 ・「やってみたい」を見取り、遊び出しを支え、満足するまで付き合う。	・子どもの発想・考えを大切にし、十分楽しむまで支える。 ・友達に思いを表す後押しをする。 ・トラブルや試行錯誤も大切にしながら、成功体験を積み重ねられるようにする。 ・「自分たちで遊びを進めている感」をもてるようにする。	・得意、不得意、知識、技能など実態の把握をする。 ・得意を周囲に認められることで、自信へとつなげる。 ・子どもから出てきた遊びや、友達との共通の目的をもった活動など、子ども自身の発想や工夫を大切に、実現する経験を支える。
言葉掛け	・自分で決めたり、次に期待したりできる言葉掛けをする。 ・思いを受け止め、様子に合わせて言語化したり、見守ったりする。	・お互いの気付きをつなげる。 ・みんなが理解し、楽しさを共有できるようにする。 ・自己肯定感を高める言葉掛けや、論理的な思考につながる問いかけをする。	・友達との関わりを繋ぐ橋渡しをする。（友達を頼る、友達と共感、共同注視、関係性の深まり、学びなど） ・子どもの発想を肯定的に受け止める。
環境構成	・遊びのねらいに合った場を構成する。 ・「やりたい」と思ったときにすぐにできる場や自分で扱える素材を準備する。 ・「やってみたい」を引き出す場やアイテムを用意する。 ・幼児の思いを大切に、必要に応じて、場や物を残しておくようにする。	・子どもの声を受け止めて環境を構成していく。 ・実現過程の具体を示す。 ・失敗したり試したりできる場と時間を保障する。 ・友達と遊びを共有できる具体物を用意する。	・自分たちで遊びを進められるための環境づくりをする。（実態に合ったメンバーや人数構成、素材の提示など） ・イメージや目的を実現するための環境を保障する。（素材、場所、時間など） ・活動の中でやりがいや役割を感じられるような環境づくりをする。

次年度：上記のまとめを元に、小学校での教師の役割との関係性や、共通点・相違点を探ります。

幼児の「やってみたい」という姿がどのように小学校教育での学ぶ力の育成に結びついていくのかを、令和7年度札幌市学校教育の「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを手掛かりにしながら、幼稚園と小学校の教諭同士が参観や協議を通して学び合う

成果1：「やってみたい」があふれる幼児の姿について、小学校と連携していく上で共通の視点をもてるよう、上記の『学ぶ力』の育成に向けた五つのポイント」につながるであろう姿に分けてまとめました。

「やってみたい」があふれる幼児の姿とは

1、難しいことにも挑戦する意欲を伸ばします。

- ・初めてことや苦手なことにチャレンジする姿
- ・上手いかなくても諦めずに取り組もうとする姿

2、「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」を身につけられるようにします。

- ・好きなことに夢中になっている姿
- ・友達と考えやイメージを共有共感する姿
- ・友達や先生を誘って遊び出す姿
- ・教師や友達の姿を見て真似をしようとする姿
- ・異年齢の遊びに参加し刺激を受けて遊ぶ姿
- ・先生や友達と共に遊びや活動に取り組む姿

3、意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。

- ・工夫や思考錯誤をする姿
- ・「分かりたい」「知りたい」と動く姿
- ・興味があることに繰り返しじっくりと取り組む姿
- ・思いを実現させるための方法を探る姿

4、自分の伸びを実感して新たな目標をもてるようにします。

- ・繰り返し楽しむ姿
- ・新しい遊びに取り組む姿
- ・できるようになったことを喜び、さらに頑張る姿
- ・できる自分を実感して取り組む姿
- ・大人に気持ちを支えてもらい、意欲をもつ姿

5、生活を自らコントロールする力を育みます。

- ・自分の気持ちに折り合いを付ける姿
- ・やりたいことの実現のために準備、相談、計画をしながら遊ぶ姿
- ・自分の思いと違う考えも受け入れる姿

全体

- ・「面白い」を見付ける姿
- ・何日も続けて遊び、もっと面白くしようとする姿



成果2：保育を参観する小学校の先生（他校種研など研究以外の来園も含む）に、研究を意識した内容のアンケートに記入していただき、小学校の先生から見た保育を知る手段の1つとして活用しました。

アンケートの内容は、

- ① 本日の保育で【子どもたちの「やってみたい！」があふれる姿】と捉えた場面
- ② 上記の姿のための教師の役割として気が付いた点
- ③ 小学校との共通点・相違点など
- ④ その他感想・質問など

以上の項目で設定しました。次年度も、研究の視点に沿って内容を精査し、小学校の先生たちとの話合いに活用していきたいと思います。

札幌市立きくすいもとまち幼稚園
保育参観・交流会 アンケート

所属 所属
名前 (幼稚園・認定こども園・小学校・その他)

お名前

1. 本日の保育をご覧になって、【子どもたちの「やってみたい！」があふれる姿】と捉えた場面をお書きください。

①

2. 上記の姿のための教師の役割として、気が付いた点をお書きください。

《関わり方》 《言葉掛け》 《環境構成》

②

③ 《小学校との共通点・相違点など》

④ 3. その他感想・質問などがあればお書きください。

成果3：小学校の授業公開や本園の保育公開、意見交流会を通して、互いの教育や教師の役割などについて学び合いました。

米里小学校(白石区)授業公開・交流会にて

9/24

- ・発達の違いに応じた伝え方をする
- ・発言を肯定的に返しつつ、学習の本質を伝える
- ・遊びやゲームを友達と一緒に作ることができるようにする
- ・「どうしたらいいか」子どもたちに投げかける(チームワークを高めるため)
- ・子どもの気づき、発見、周りの意見を教師が反芻する(子どもに伝わりやすくするため) …など

もみじの森小学校(厚別区)幼保小交流会・SEL 授業参観にて

12/8・12/10

- ・丁寧な言葉でのやり取りを大切にする
- ・児童の興味を引き出す教材を工夫する
- ・教師同士が『顔見知りになる』だけでも成果である(教師同士が身近な存在になる)…など

本園の保育公開・交流会にて

12/12~12/16

- ・子どもの『やりたい』思いを見取り、言葉を掛けたりタイミングを図って関わったりしていく
- ・学級間で指導方法の相違が生じる可能性などを考え、児童の思いをすぐに受け入れることができない場合もある
- ・幼稚園での『環境構成』と小学校での『場の設定』の違いがある
- ・「遊びの中で育てている力が学びにつながっているか。」という点については、つながりがあると感じる …など

次年度：柱①での課題と同様に、『『やってみたい』があふれる子どもの姿とは』を元に、小学校での学びに向かう姿との関係性や、共通点・相違点を探ります。

柱

③

幼稚園教育要領および小学校の学習指導要領における「目指す子どもの姿」を両教育段階で、どのように重なりあっているのかを共通理解し、幼児教育と児童期の連続した育ちをどう支えるかを考える

次年度：柱②の成果3のような交流会で教師の役割や子どもの姿については話ができたものの、幼稚園教育要領や小学校の学習指導要領についての話にまでは及ばなかったもので、本園でのまとめを共通の視点にして考えながら、小学校との連携をさらに深めていきたいと思います。